本年度大会の焦点は，高密度社会と都市問題におかれたと言ってよく，もちろん結論を得るには至らなかったが，きわめて活発な討論が行なわれ，今後の研究課題が提起された．

なお，理事会において第1回奥井賞の受賞者（慶応大学矢崎武夫・大分大学森川洋の両氏）が決定され，このことが総会に披露された．また，7月22日には帯広市内および周辺部の見学会がもたれた．

（岡崎陽一記）

日本統計学会第36回総会・研究報告会

昭和43年度の日本統計学会は，9月6・7両日にわたり，一橋大学において開催され，本研究所からは舘稔，上田正夫，岡崎陽一，山口喜一の4技官が出席した．

研究報告会は三つの会場に分かれて行なわれたが，予定されたプログラムにおける一般研究報告は46題であった．そのうち人口に関連のある報告としては次のものがあった．

人口移動の統計分析——第3次産業を中心とする分析——……岡　崎　陽　一
人口の社会移動と年齢構造の変化……仮　谷　太　一
人口移動と年齢構造・出生との関係……上　田　正　夫
年齢別死亡数の社会医学的考察——主として明治23年以降の歴史的観察による——
……飯　淵　康　雄
日本のモデル生命表……安　川　正　彬
伝染病の周期的および季節的変動……川　上　理　一

なお，本年度の共通テーマ報告として「社会科学における統計的方法」（6日）と「情報処理と統計学」（7日）の2題があった．

（山口喜一記）

第8回国際人類学民族学会議

第8回国際人類学民族学会議（VIIIth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences）が去る9月3日より10日まで，東京都千代田区の全共連ビル（3～7日）ならびに京都市左京区の京都国際会議場（9～10日）を会場として開催された．この会議の母体は，パリに本部を置く Union Internationale des Sciences Anthropologiques et Ethnologiques で，4年目ごとに国際会議を開催しているが，アジアでこれが開催されたのは今回がはじめてである．会議の President（同時に Union の President）は，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長　岡正雄教授がつとめられた．海外からの参加国48か国，参加者684名，国内からの参加者452名という盛況であった．

会議では，Sectional Meetings, Symposia および Working Groups において，種々の研究発表，討論が行なわれたが，Sectional Meeting はまず，A. Anthropology, B. Ethnology, C. Archaeology, D. Demography, E. Museology の五つの Division より構成され，Anthropology および Ethnology の Division は，それぞれ8および13の Section に分けられた．シンポジウムは人類学関係のものが8，民族学関係のものが10行なわれた．

人口学領域からみての今回の会議の特徴の一つは，この国際人類学民族学会議でDemographyのDivisionが設けられたことである．人類学民族学領域における人口学的研究の活動は，いまだ目だたないほどのものであるが，それでも近年しだいに活発になりつつある．今回，この会議に Demography が一つの Division